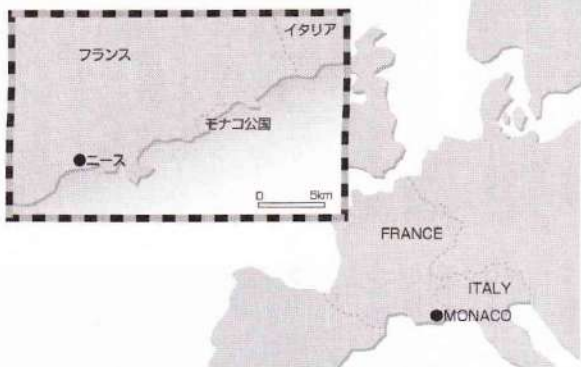


ON VA À MONTE-CARLO!

モンテカルロ音楽紀行

取材・文 中東生
Text Shinobu Naka

地中海に臨む小国、モナコ公国。中心となるモンテカルロは、各国のセレブが集まる美しくきらびやかな地区だ。カジノやF1レース、デラックスなホテルもいけれど、ここでは、オペラ座やコンサートホール、王宮の中庭などモナコのクラシック音楽スポットを、その歴史とともに巡ってみよう。



①モンテカルロとモナコ港全景。天気の良い日は空と海の界がなく、紺碧の世界に白い建物や豪華客船が眩しい
©Bureau du Tourisme de Monaco



③ベル・エポック調の外観が美しいグラン・カジノ。入るのに多少気後れするが、誰でもスロットマシンから楽しむことができる
©Bureau du Tourisme de Monaco

パチカン市国に次ぐ、世界第2の小国、モナコ公国。皇居の約2倍と言われるその国の中でも、19世紀後半、シャルルIII世が整備した都市部分をモンテカルロ（カルロとはシャルルの伊語）と呼ぶ。そんな小さな土地に、実は凝縮された音楽的歴史が隠されている。歴代の君主がみな文化・芸術を愛好してきたからだ。今回は、文化都市モンテカルロに、音楽的視点から接近してみたい（写真①）。

モンテカルロのオペラ、オーケストラ、バレエ

パリのオペラ座をバレ・ガルニエ（ガルニエ宮）と呼ぶのに対し、サル・ガルニエ（ガルニエの劇場）の愛称で親しまれているモン

テカルロ・オペラ。グラン・カジノと同居するベル・エポック調の外観、度々高級車が乗りつける劇場前広場、向かって左にあるカフェの客層がすでに、高級社交場の雰囲気漂わせている（②③）。

実はここは、数々のオペラが初演された、記念すべき場所なのであった。20世紀の幕開けとともに、パリで厚遇されなかった作曲家たちがモンテカルロを訪れ、自らの作品を初演する機会を得ている。デ・サバタが振ったラヴェルの《子供と呪文》（1925年）や、ティート・スキーパーが歌ったブッチーニの《つばめ》（1917年）などが有名だが、マズネはこの地に1901年から11年間も移り住み、その後も1922年まで度々訪れ、7

モンテカルロ地区

●エリミタージュ

●ルイ XV (ホテル・ド・パリ内)

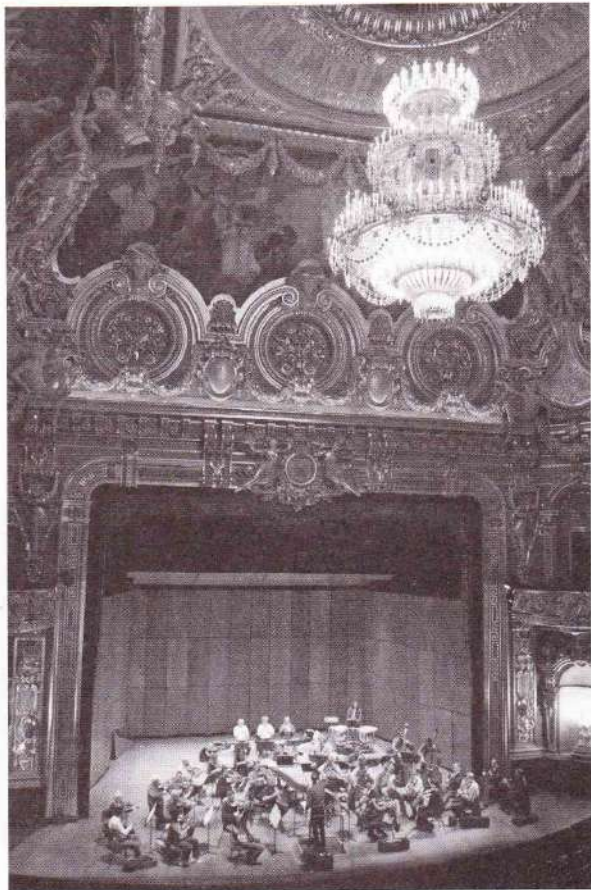


■グラン・カジノ
●オペラハウス

■ニエIII世オーデトリウム

●国際会議場

■グリマルディ・フォーラム



②サル・ガルニエの愛称で親しまれるモンテカルロ・オペラ。わずか524席の小さな劇場で、2005年11月に2年間の改修工事を終えたばかり
©l'Orchestre Philharmonique de Monte-Carlo



④モンテカルロ交響楽団は、平均年齢が比較的低いのが有名。フランス人が多いが、中国人も2人おり、国際色豊か
©l'Orchestre Philharmonique de Monte-Carlo

⑥グリマルディ・フォーラム外観。ガラスのピラミッド型は、自然光が贅沢に降り注ぐエントランスと、豪華なイブニングドレスが映える背景としての、2つの重要な役割がある
©Bureau du Tourisme de Monaco

⑦グリマルディ・フォーラム内部。海底とは思えない立派な作りで音響もいいが、楽屋に通じるエレベーターなど、非常に頑丈に作られているのが特徴的だ
©Bureau du Tourisme de Monaco



■大宮殿

つものオペラを初演している。年代順に追うと、1902年《ノートルダムの曲芸師》、03年《シエリユバン》、07年《テレーズ》、10年《ドン・キホット》、12年《ローマ》、14年《クレオパトラ》、22年《アマデウス》となる。

22年間もこのオペラ劇場を育ててきた総監督のモドラー氏が「公演を成功させる二大要素は高いレヴェルのオーケストラと歌唱」と語ることもわかるように、来シーズン150周年記念を迎えるモンテカルロ交響楽団の名声は高い④。このオーケストラはオペラ公演のほか、2000年に完成したグリマルディ・フォーラム⑤⑥で大曲のコンサートを催したり、2003年からはレーニエ三世オーデトリウムを拠点として活動している。

大きなコンサートホールを建てる土地のなかったモンテカルロは、なんと海の上にグリマルディ・フォーラムを建設。上に高く作る代わりに、海の底を掘り下げて作られているので、ステージ、楽屋などすべてが海底深くに存在する。一方レーニエ三世オーデトリウムは、F1のテレビ放映でよく見るトンネルの横に位置するので、殺伐とした雰囲気を与える立地条件だが、内装は近代的な品格を醸し出し、束の間、外の喧噪を忘れさせてくれる。ロビーから見える海も絶景だ。

1988年からモンテカルロ交響楽団に関わり、2001年から芸術監督に就任したコーマンス氏に話を伺った。年間30〜36のコンサートと4〜5演目のオペラ、2演目のバレエ、と活動は90%がモナコ国内だが、クリスマスと復活祭には、モンテカルロ・バレエと共に遠征する。日本へのツアーには同行できなかったが、08年にオーケストラのみで日本ツアーを調整中だというので期待したい。

そのモンテカルロ・バレエもモナコの誇りだ。前身はディアギレフ率いるバレエ・リュス（ロシア・バレエ団）だが、故グレース王妃の庇護のもとに、カロリーヌ王女がモナコ公国公式バレエ団として認定した1985年以降は、日本にも88年に初来日を果たし、名声を博している。93年から現在の芸術監督マイ

ヨーが就任し、2000年にグリマルディ・フォーラムを拠点とするまで、オペラ、オーケストラ、バレエの3つの芸術が、サル・ガルニエを本拠地として栄えていたのである。

イヴェントが盛んな国モナコ

音楽以外にもモンテカルロはF1で有名である。この、街中が騒音の渦に巻き込まれる時期には、もちろん音楽活動はすべてお休みとなる。住人はアパートをF1ファンに貸して、国外脱出するらしい。道路沿いのアパートなどで、たった3日間貸すだけで、1年間の家賃が払えるほどの高額でも借り手があるそうだ。その他にも、実は毎月イヴェントがある。

1月はモンテカルロ・ラリー、2月はサーカス・フェスティヴァル（故レーニエ大公



が好きだったそうだが、3月は薔薇の舞踏会、4月はバロックから現代曲を網羅する「モンテカルロ春の芸術祭」、5月はモナコF1グランプリにテニス・マスターズ、6月は夏の舞踏会、7月は王宮の中庭で催される6回の大公宮殿コンサートシリーズと国際花火フェスティバル、8月は赤十字の舞踏会、9月はヨットショー、10月はモンテカルロ・マジックスターズ、11月はモナコ公国ナショナルデー、12月は大晦日特別イベントが開催される。

モナコのロイヤル・ファミリ

モナコ公国といえは、誰でも故グレース王妃を思い出すであろう。やはりロイヤル・ファミリなしにこの国は語れないと実感したのは、アルベルII世にお目にかかってからのことだ。前述の大公宮殿コンサート(⑦⑧)の1つを聴いた後、臨席された王子を真近で見られる機会に恵まれた。胸元に上品な刺繍があらわれた麻のカッチリとした白シャツに濃紺のスラックスという出で立ちで談笑なされる彼は、王子様ということを忘れるほど気さくで、気品と人間味がうまく溶け合ったオーストラリアが印象的だった。そのうち、私が東洋人だからか、「どちらからお出でになられたのですか」とお声をかけて下さった。日本の事を伺ってみると、「私達にとって、日本は特別な国です。

【モンテカルロの主要音楽スポットほか】

※以下、名称、住所、電話番号、URLの順

○オペラハウス Salle Garnier
Place du Casino, Monte-Carlo
Tel:+377-98-06-28-28
<http://www.opera.mc/>

○レーニエ三世オーティトリウム
Auditorium Rainier III
Boulevard Louis II, Monaco Cedex
Tel:+377-93-10-85-17

○グリマルディ・フォーラム
Grimaldi Forum (Salle des
Princesse Grace)
10, Avenue Princesse Grace,
Monte-Carlo
Tel:+377-99-99-30-00
<http://www.grimaldiforum.com/>

○大公宮殿 Palais Princier
Palais Princier, Monaco Cedex
<http://www.palais.mc/>

【おすすめレストラン・ホテル】

○レストランルイ XV Le Louis XV
Hôtel de Paris (Place de Casino,
Monte-Carlo) 内
Tel:+377-98-06-88-64
<http://www.montecarloresort.com/>

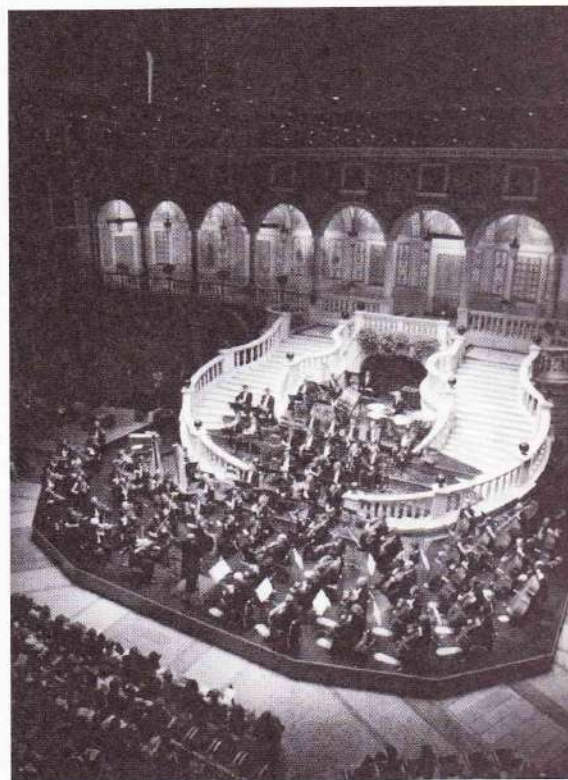
○ホテル エルミタージュ
Hôtel Hermitage
Square Beaumarchais, Monte-
Carlo
Tel:+377-98-06-40-00
<http://www.montecaroresort.com>

【音楽団体】

○モンテカルロ交響楽団
l'Orchestre Philharmonique de
Monte-Carlo
<http://www.opmc.mc/>

○モンテカルロ・オペラ
Opéra Monte-Carlo
<http://www.opera.mc/>

○モンテカルロ・バレエ
Ballets de Monte-Carlo
<http://www.balletsdemontecarlo.com/>



⑦モンテカルロ交響楽団による大公宮殿コンサート。階段下の壁には歴代君主の肖像が飾られており、臨場感がある

©l'Orchestre Philharmonique de Monte-Carlo



⑧衛兵交代式も行われる大公宮殿。向かって右手にモンテカルロの町並みが広がる
©Bureau du Tourisme de Monaco

政府観光局も置いてありますし、両親も訪日した思い出を語っていました。今後もぜひ、友好関係を継続させていきたいと思っ「す」とお話しただいた。

故レーニエ大公は、頭がきれるビジネスマンで、独裁者的な雰囲気があったらしいが、アルベルII世はおとなしい性格、優し過ぎるほどの人格が、一国の主としては多少不安を抱かせている部分があるらしい。しかし、規則にも厳しくなく、自然保護、エコロジー、海洋汚染防止に力を入れている彼にモネガツセ(モナコ国民)らは、父親の主義を急速に変えずに、モナコ公国をよりよい方向に向か

わせてくれると期待しているようだ。

本当のモネガツセというのは、人口の約5%に過ぎない。モナコ公国住民には、税制のないこと、教育システムが発達していること、全道路に監視カメラが設置され、防犯が徹底していることなどの特典は多いが、物価は高い。高学歴のモネガツセは外国に出て行ってしまいうので、必然的に残っているモネガツセの教育程度が低いという問題もある。

モンテカルロの音楽家

モンテカルロ在住の音楽家には、ヴェンゲローフ、マゼール、バルトリの他、以前はパ

ヴァロツティも住んでいた。ルツジェーロ・ライモンディは、その中でもモネガツセになつた希有な存在である。モナコ公国に貢献したという条件で、モネガツセになれるよう自薦他薦のシステムがあるが、決定権は大公のみである。今までにスポーツ選手などがモネガツセに昇格しているらしい。

住民95%が外国人というのは、この国の魅力のなせる技。コート・ダジュール(仏語で「青い海岸」)の名の通り、真っ青な海を眺めながら、安全な町中を闊歩し、オペラやバレエ、コンサートを堪能する。ここモンテカルロこそが地上の楽園かもしれない。